

令和8年度小平市立小平第一中学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを生徒が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを生徒が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

全ての観点、領域において、全国平均を上回る数値を出し、特に言葉の特徴や使い方に関する事項領域では全国平均より 10 ポイント以上上回った。しかし表現力の領域は、全都平均と比べると正答率が低かった。

課題

知識・技能の問題では、ほぼ、無回答率は 0 なのに対して、読むことは、他の問題に比べて無回答率が高かった。
今後はより多くの文章に触れさせる必要がある。
また、話すことの領域においてはより丁寧に学習を進めていくことが必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

文章を書いた後には、これまで行ってきた、自分自身による推敲、教師による指導のほかに、新たに生徒同士で文章をアドバイスしあう交流の時間を設ける。また意識的に辞典を使わせ、辞書的な意味を踏まえた上で文脈上の意味を捉えることを意識した指導を行う。正答率の低い問題傾向については国語科教員で把握・共有し、それを次年度の授業の中で時間をとってより丁寧に説明するよう留意する。

【数学】

状況の分析

全ての観点、領域において、全国平均を上回る数値を出し、特に図形の領域では全国平均より 10 ポイント以上上回った。
しかし関数の領域は、他の領域と比較すると全国平均をやや上回った程度であり、都平均と比べると 1.2 ポイント下回っていた。

課題

数学的な思考を問う問題、説明する力を問う問題では、他の問題に比べて無回答率が高かった。
今後は自分の考えたことを数学的に表現し、説明できる力をより一層育む必要がある。
また、関数の領域においてはより丁寧に進めていくことが必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

習熟度別授業の中で、毎週、自分の考え方を他者に表現する機会を設け、説明力を養う。特に各単元の「利用」の問題では、授業内で様々な考え方を ICT を用いて共有し、数学的思考の幅を広げていく。
「関数」の問題においては、前年度の関数の学習の中で生徒がつまずいている部分を数学科教員で把握・共有し、それを次年度の授業の中で時間をとってより丁寧に説明するよう留意する。

【英語】**状況の分析****課題**

多くの観点、領域において全国平均を上回る数値を出し、特に聞くことの領域では全国平均より 4.8 ポイント以上上回った。読むことと書くことの領域においては全国平均を下回る問題があった。

選択式の問題では無回答は 0 だが、記述式の問題は無回答の問題があった。特に、意見と理由を記述する問題では最も無回答が多い問題で 17% が無回答だった。

書くことの指導に一層力を入れる必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

読むことについては、授業内で長文を読む際のポイントを確認し、文章の中から自分が必要としている情報を見つける能力を養う。話すことに関しては、パフォーマンステストやペアワークだけでなく、ICT を活用した練習を取り入れることで授業内での発話量を増やしていく。書くことについては教師や ALT による添削のほかに AI による文法チェックなどを利用するとともに、英語での意見の書き方について丁寧に説明するよう留意する。

【質問紙】**状況の分析****課題**

平日および休日に家庭学習を行う時間が 4 時間以上、ICT を利用した学習が 3 時間以上と回答した生徒はいずれも都平均・全国平均よりも低い。しかし ICT 機器を用いた文章の作成や情報の収集・整理、プレゼンテーションができるかについては、肯定的な回答が 8 割を超えており、都平均・全国平均と比べても高くなっている。

ICT 機器の使用スキルについては肯定的な意見が 8 割以上を占めているにもかかわらず、学習において ICT 機器を利用する割合が低い。また、家庭学習においては 1～2 時間など最低限の学習をしている生徒の割合は多いが、それ以上の学習時間になると割合が大きく下がっている。これは学習塾以外での学習時間が多くないことが推察される。家庭学習の習慣をつくらせる必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

各教科担当間で連携をとり、生徒の負担が大きくなりすぎないように配慮しながら、家庭学習を行うための課題等を定期的に出していく。また、ICT を効果的に利用した課題等を出せるように、教職員の ICT 機器の使用方法や課題作成等の校内研修を実施し、教職員側のスキル向上を図る。

家庭学習時間や ICT の学習での利用時間について、各学期にアンケートをとり、生徒の学習状況を把握しながら課題の調整を行い、三者面談や保護者会等でも状況を家庭に伝え、家庭学習の促進を行っていく。